

部 会 報 告

ISO/TC 127 インド（デリー市）国際総会報告

標準部会

国際標準化機構 ISO 専門委員会 TC 127（土工機械）第 29 回総会が 2023 年 10 月にインド（デリー市）で開催されたので詳細につき報告する。

1. 開催日：2023 年 10 月 8 日（議長諮問委員会：CAG），9～12 日（TC 127 総会）
2. 開催地：インド デリー市 India Habitat Centre 会議室（写真－1）
3. 出席者：対面出席者：37 名，Web 経由参加者：18 名（TC 127 総会の例（写真－2，3））
対面参加者内訳：ブラジル（ABNT）3 名，フランス（AFNOR）3 名，米国（ANSI）8 名，インド（BIS）7 名，英国（BSI）3 名，ドイツ（DIN）0 名（Web 2 名），日本（JISC）9 名（Web 2 名），韓国（KATS）2 名（Web 2 名），オーストラリア（SA）1 名（Web 1 名），中国（SAC）0 名（Web 7 名），スウェーデン（SIS）0 名（Web 2 名），イタリア（UNI）1 名（Web 1 名），ISO 中央事務局（Web 1 名）

4. 全体日程：下記の通り

10 月 8 日（日）		
午後	議長諮問グループ会議（CAG）	
		India Habitat Centre 会場内
夜	社交行事	同上
10 月 9 日（月）		
午前	ISO/TC 127 総会（前半）	同上
午後	ISO/TC 127/SC 1 総会	同上
10 月 10 日（火）		
午前	ISO/TC 127/SC 2 総会	同上
午後	ISO/TC 127/SC 3 総会（前半）	同上
10 月 11 日（水）		
午前	ISO/TC 127/SC 3 総会（後半）	同上
午後	ISO/TC 127/SC 4 総会	同上
夜	社交行事	同上
10 月 12 日（木）		
	ISO/TC 127 総会（後半）	同上
10 月 13 日（金）		
	社交行事	デリー市近郊

5. 会議概要

日本は ISO/TC 127 設立当初より P メンバー（積極的参加国）として国際会議に参加し，かつ SC 3 分科委員会の国際議長及び幹事国業務を引き受け，日本発の土工機械が世界市場で占めるシェアに応じた国際貢献を行っている。ISO/TC 127 では，加盟各国の持ち廻りで 1 年半毎に世界各地で総会を開催しており，今回はインド開催の順番であった。



写真－1 会議場（India Habitat Centre）



写真－2 全体集合写真（会議会場前）



写真－3 TC 127 総会風景

日本から対面会議への参加者は、ISO/TC 127/SC 3 国際議長の間宮氏（コマツ）、ISO/TC 127 国内委員長の小塚氏（コマツ）、SC 1 国内分科委員長の大本氏（コベルコ建機）、SC 2 国内分科委員長の坂井氏（キャタピラージャパン）、SC 3 国内分科委員長の後藤氏（コマツ）、SC 4 国内分科委員長の高山氏（日立建機）、SC 2/JWG 28 コンビナーの岡氏（コマツ）、SC 1/WG 6 プロジェクトリーダーの正田氏（協会標準部）、及び ISO/TC 127/SC 3 国際委員会マネージャーの西脇氏（協会標準部）の計 9 名であった（写真—4）。

また、SC 3/WG 5 コンビナーの山本氏、および次期コンビナー候補の中川氏の計 2 名が Web 会議経由で日本から参加した。

以下に、主な出席者が会議毎にまとめた報告を開催順序に沿って紹介する。

なお、会議終了後の進展については、各項目で [後記] としているので参照されたい。

6. 議事

6.1 ISO/TC 127/CAG（議長諮問グループ会議）（10月8日（日）午後）

総会への準備を主目的として、TC 127 米国議長団が運営した。親 TC・各 SC の国際議長・委員会マネージャー及び各国使節団の代表らが出席し、総会運営上の注意事項や、規格開発上注意が必要な案件について概要を相談した。主な議事は以下の通り。

6.1.1 開会、委員自己紹介

TC 127 国際議長の Crowell 氏が開会を宣言し、各国首席代表らが自己紹介を行った。

6.1.2 各 WG の状況

ISO/TC 127 及び傘下の各分科委員会傘下の各作業グループ会議の日程案が紹介された。近年、Web 会議比率増加に伴い会議開催回数自体が増え、以前より日程調整に手間取ることが多くなったが、簡便なツールにより会議候補日を委員間で共有する手法について

米国議長団より説明があった。

6.1.3 新業務の候補、ISO/TC 127 の業務効率改善など

各国からいくつか案が出され、翌日からの本会議で審議することとなった。

6.1.4 次回総会の場所

会議に Web 参加した中国代表より「次回総会を中国で主催したい」との意向が示された。ただし、2018 年に対面総会を中国で開催したところであり、世界 3 極地域での持回りが原則となっているため、中国に謝意を表しつつも、今回は欧州で 2025 年 4～6 月頃に開催する方向となった。

6.1.5 次回 CAG 日程

次回総会時期との間隔を考慮し、2024 年 4 月 2 日に Web 開催する予定とした。

6.1.6 閉会

閉会后、会議室隣接の会場で会食を開催し、総会出席者らで親交を深めた。

6.2 ISO/TC 127 土工機械専門委員会 総会 前半（10月9日（月）午前）

親 TC 127「土工機械」総会前半：10月9日（月）午前に総会の前半を開催した。総会運営上の注意事項などを紹介後、各国首席代表が自国の代表団を紹介し、議題案承認、決議起草委員会の選任、幹事国報告（これらの事務的事項は、以後の各会議も同様）、ISO の規程（ISO/IEC 専門業務用指針）の改正に関する報告、親 TC 傘下の各業務項目及び作業グループ・特設グループの活動が報告され、各質疑が行われた。

6.2.1 議題追加

議題案に対し、フランスより ISO/TC 197（水素技術）との連携締結について追加審議の提案があり、最終日に審議することとした。

6.2.2 親 TC 直属 WG 進捗状況報告

- 下記 WG 活動についての報告があった。
- ・ AHG 3：ブロックハンドラーの標準化、コンビナー（スウェーデン）が報告。
 - ・ SG 1：オフロード作業機械調整グループ、TC 127 議長（米国）が報告。
 - ・ WG 8：サステナビリティ、TC 127 議長（米国）が報告。
 - ・ WG 17：回生エネルギー貯蔵システム（RESS）、コンビナー（米国）より、審議期間延長のため、プロジェクト再始動の委員会投票（CIB）を開始したことを報告した。また、下記 IEC 規格を WG17 内で活用するため、6.7 で後述する決議のとおり、IEC との連携関係締結が提案された。



写真—4 日本代表メンバー（9名）

- IEC/TC 21 (二次電池)
関連規格：IEC 62619：2022 アルカリ又は他の非酸電解液を含む二次電池及びバッテリー工業用途で使用する二次リチウム電池及びバッテリーの安全要求事項
- IEC/TC 21/SC 21A (小型二次電池)
関連規格：IEC 62485-6 Ed. 1.0：2021 (b) 二次電池及び電池設備の安全要求事項－第6部：牽引用途でのリチウムイオン電池の安全操作

6.2.3 ISO 中央事務局報告

直近のISO業務指針改訂内容が紹介された。主な項目は下記。

- ・活動キャンセル期限後に従来付与されていた6ヶ月の猶予期間の設定が、今回改訂で廃止された。
- ・ISO案文編集ツールとして、試行中のOnline Standards Development (OSD)という新しいプラットフォームへの移行を推奨する動きが紹介された。

6.2.4 連携報告

6.2.4.1 AEM (米国建機工業会)

米国より「AEM活動に関して、電動化に関する図記号の統一のため、AEM内でWGを設置し情報収集を実施中で、有志グループ参加者を募っている」との報告があった。これに対し、TC 127議長より、「TC 127/SC 2の規格ISO 9244 (土工機械の安全ラベル)と同様な対応が必要であり、TC 145/SC 3 (機器・装置用図記号)と協業して行動すべき」との補足があった。

6.2.4.2 CECE (欧州建機工業会)

スウェーデン、英国、フランスよりCECE活動の報告があった。

CECEは、以前のエンジン排ガス規制対応プロジェクトチーム (PT) を、電動化・脱炭素化プロジェクトチームに置き換えている。また、欧州機械指令が機械規則に置き換わる事に伴う各整合規格の扱い (改定要否等) について、現実的な方法を模索している、との報告があった。

6.2.4.3 その他連携団体

CEMA (欧州農業機械工業会)、EC (欧州委員会)、TC 23/SC 15 (林業機械)、TC 31 (タイヤ、リム、バルブ)、TC 82/SC 8 (高度自動採掘システム) の関係者より報告があった。

6.3 ISO/TC 127/SC 1 安全及び性能試験方法 分科委員会 (10月9日 (月) 午後)

SC 1会議はTC 127総会に引き続き、英国のSC 1国際議長の議事進行のもと対面会議とWeb会議併用

のハイブリッド会議で開催された。議長挨拶に続き、ISO行動規範の確認、出席者点呼 (各国SC 1代表が各国メンバー紹介)、議事案承認 (SC 1文書 N917)、決議起草委員会委員の指名、幹事国報告 (SC1国際幹事がSC1幹事国報告書 (SC 1文書 N920) の内容を報告)、前回2021年10月の第31回TC 127/SC 1分科委員会会合の報告書 (SC 1文書 N904) の内容の報告が行われたのち、議事案に沿って討議が進められた。主要な項目について概要を紹介する。

6.3.1 TC 127/SC 1 国際議長の再指名

現国際議長のJason Ong氏 (英国) の任期満了が近づいたため、さらに3年の任期で指名する (決議 SC 1/329)。

6.3.2 TC 127/SC 1/WG 5 ISO 5006 Visibility 運転員の視野

規格改訂の必要性について、コンビナー報告書 (SC1 Doc N922)、定期見直し投票結果および投票コメント、英国BSIによる改訂提案発表 (SC 1文書 N924) に基づいて規格改訂の議論を行い、「確認 (改訂不要)」との結論とした。ただし、WG 5は定期見直し投票時の投票コメントのレビューを行い、次回SC 1分科委員会にて報告することとした (決議 SC 1/330)。

6.3.3 TC 127/SC 1/WG 6 ISO/PWI TS 11152 エネルギー消費量試験方法

PWI (予備業務提案) が承認され活発に活動が行われていること、複数のパートから成る規格を予定しており、第1部では一般要求を対象とし、後続のパートで各種機械を対象とすることが報告された。

6.3.4 TC 127/SC 1/WG 13 ISO 16001 物体検知システム及び視覚補助装置－性能要求事項及び試験方法

フランス、ドイツからの改訂意見および日本からは入手が困難なRotakin試験体を使用するカメラ試験手順について代替の試験体の使用を可能とする規格改訂の提案が行われたが、多くの参加国は「確認 (改訂不要)」であり、「確認 (改訂不要)」との結論とした。

これによりWGは解散されることが合意された (決議 SC 1/332)。

6.3.5 ISO 8643：2017 油圧ショベル及びバックホウローダの降下制御装置

ドイツより、現規格内容はブーム降下時にエネルギーを蓄積する機械について扱われていないこと、配管が完全に破断せずに一部が破損した場合に降下制御装置が適切に作動しないことの懸念について説明が行われた。

米国より現行の規格発行時に規格編集者が“linkage

control valve”（リンケージ制御バルブ）を“lowering control device”（降下制御装置）に読み替える編集上の誤記を行っており、修正が必要と提案された。

後者の規格発行時の誤記についてのみ、米国をプロジェクトリーダーとして18か月間の改訂作業を行う事を決定した（決議 SC 1/331）。

6.4 ISO/TC 127/SC 2 安全・人間工学・通則 分科委員会（10月10日（火）午前・午後）

米国の SC 2 議長及び委員会マネージャーにより運営された。議長挨拶に続き、各国使節団の紹介後、議事案「SC 2 文書 N 1823」の承認、決議起草委員会指名、幹事国報告が行われたのち、議事案に沿って討議が進められ、個別の規格について以下の通り協議、決議された。

6.4.1 SC 2/AG 1, Operator protective structure standards – 運転員保護構造

WG 33 および WG 34 について 2021 年より 5 度の会議が開催された、次回対面会議を、他で設立された OPS WG も交えて 1 月にオーストラリアで開催できないか検討中である。

現コンビナー Steve Neva 氏（米国）の任期満了が近づいたため、さらに 3 年の任期で指名する（決議 SC 2/N1831-15）。

6.4.2 SC 2/WG 12 – Joint TC 127/SC 2 and TC 108/SC 4 – 全身振動

進行中の作業がないので、WG 12 を解散することが決議された。WG 12 コンビナー（米国）、および専門家の長年の活動に感謝の意が示された（決議 SC 2/N1831-16）。

6.4.3 SC 2/WG 13 – Dumper trainer seat/enclosure – ダンプ補助席

ISO 13549 追補が 2022 年 11 月に正式発行された、これにより業務の完了となり、WG 13 を解散することが決議された。WG 13 コンビナーの間宮崇幸博士と、専門家の長年の活動に感謝の意が示された（決議 SC 2/N1831-17）。

6.4.4 SC 2/WG 15 – Development of ISO 13649 – 火災防止

現在 DIS を準備中であり、2 月 14 日期限で投票に付される予定。DIS 投票後の 2024 年 2 月末か 3 月初旬に WG の開催を予定されている。また、現コンビナー Steve Neva 氏（米国）の任期満了が近づいたため、さらに 3 年の任期で指名する（決議 SC 2/N1831-18）。

6.4.5 SC 2/WG 22 – ISO 17757 – 自律運転機械の安全性

2023 年 2 月にカルガリー（カナダ）で JWG が開催され、その会議で合意された 2 つのプロジェクトが進行中である。

- 1) 自律運転のための表示灯の色をどうするかという課題に、機械接近通報装置（Bystander Awareness）プロジェクトと協働し検討する。
- 2) Ad Hoc Group が自律型建設機械の要求事項の内容について検討し、建設機械の自動運転プロジェクトの詳細内容について推し進める。

現コンビナー Dan Roley 博士（米国）の任期満了が近づいたため、さらに 3 年の任期で指名する（決議 SC 2/N1831-19）。

6.4.6 SC 2/WG 24 – NP 19014 – 機械制御系（MCS）の安全性

ISO/CD 19014-1 – Part 1：安全性能要求レベルの決定方法：定期見直しの投票結果は「確認」多数だったが、ISO 16001 の場合と異なり、欧州指令対応のため改正要と判断され「改正」と決議した（決議 SC 2/N1831-21）。

現コンビナー Dale Camsell 氏（英国）の任期満了が近づいたため、さらに 3 年の任期で指名する（決議 SC 2/N1831-20）。

6.4.7 SC 2/JWG 28 – ISO/NP 21815 – 衝突気付き及び回避

WG 内有志で活動中の「運転員能力補強（Operator Augmentation）」については、コンビナーより「独立業務として新規業務提案書の提出に進むべきでは」との意見も出たが、米国からの「現存 WG 内で詳細審議を重ねたい」との意見が採択され、現 WG 枠組みでの検討を続けることとなった。

6.4.8 SC 2/WG 30 – ISO/PWI 6683 – シートベルトの要求事項

第二回 DIS 投票を経て、FDIS 案文が作成されたが、6 月末の会議で、ISO 中央事務局編集マネージャーから、ISO Guide 78 に従い、Type C でなく Type B で進めべきとの指摘があり、FDIS 案文を改編中である。

HAS コンサルタントのコメント・フィードバックを待ち、必要であれば、年内に会議が招集される予定。また、現コンビナー Leonardo Vita 氏（イタリア）の任期満了が近づいたため、さらに 3 年の任期で指名する（決議 SC 2/N1831-22）。

6.4.9 SC 2/WG 31 – Joint TC 127/SC2 & TC23/SC15 JWG Operator Protective Structure Material Requirements –

FDIS 投票で賛成多数となり承認された。2024 年 1 月末に WG 開催予定であり、AWI 20687 硬質プラス

チック安全ガラス要求事項の組み込みについても討議される予定。

現コンビナー Steve Neva 氏 (米国) の任期満了が近づいたため、さらに3年の任期で指名する (決議 SC 2/N1831-23)。

6.4.10 SC 2/WG 32 – Material handling arms on loaders and backhoe loaders –

コンビナー不在で進行中の作業がないため、WG 32 を解散することが決議された。

WG 32 コンビナー Joakim Elvius 氏 (スウェーデン)、および専門家の長年の活動に感謝の意が示された (決議 SC 2/N1831-24)。

6.4.11 SC 2/WG 33 – ROPS – Laboratory tests and performance requirements

NP 投票により WG 設立が承認された。意見投票が少数であったため、CD 意見照会とするか、DIS 投票とするか等について、次回 WG 会議で討議の予定である。

6.4.12 SC 2/WG 34 – Rigid plastic safety glass

WG 34 設立が承認され、専門家登録も完了した。CD 案文を作成中であり、WG 会議を他の OPS WG の専門家も交え、対面会議で協議できないか現在検討中である。

6.4.13 SC 2/ISO 13031 : 2016/DAMD 1, EMM – Quick couplers – Safety

8月に開催された CIB 投票の結果、CD をスキップし、直接 DIS で運営する事となった。

6.4.14 SC 2/ISO/NP 22543, EMM – Bystander awareness – 機械接近通報装置

NP 投票が実施され、賛成多数で承認された。これにより、WG 35 設立が決議された。コンビナーは Jon Spomer 氏 (米国)。

2024年2月に第1回 WG 会議を開催予定であり、参加国は、オーストラリア、フランス、インド、イタリア、日本、スウェーデン、イギリス、アメリカの予定 (決議 SC 2/N1831-25)。

なお決議とは別に、4月中旬日本にて対面会議の予定である。

6.4.15 SC2/ISOTC 82/SC 8 and TC 127/SC 2 JWG 1 – Remote stop function for mining equipment

JWG 会議が2月にカナダで開催された。停止タイプ (緊急停止、安全停止、計画的停止)、遠隔システム作動距離、技術的要求事項 (15項目) について討議された。それ以降の JWG 活動について検討中である。

6.5 ISO/TC 127/SC 3 機械特性・電気及び電子系・運用及び保全分科委員会 (10月10日 (火) 午後～10月11日 (水) 午後)

日本議長および委員会マネージャーにより運営された。各国の紹介の後、議事案「SC 3 文書 N 1198」が採択された。その後、決議起草委員会指名、幹事国報告 (委員会マネージャーが SC 3 N 1196 を用いて前回 2021年10月総会以降の分科委員会活動を報告) が行われた。主要な項目について以下に概要を紹介する。

各業務項目 (候補案件含む) の状況報告

6.5.1 SC 3/WG 15 – ISO 6011 土工機械 – 表示機器

米国より、ISO 6011 改訂は現在校正段階にあり、近日中に発行される見込み、との報告があった。

[後記] ISO 6011 : 2023 が 2023年11月13日に発行された。

6.5.2 SC 3/WG 12 – ISO 6405-1 操縦装置及び表示用識別記号 – 第1部 : 共通識別記号 (改正) 及び ISO 6405-2 同2部 : 特殊機種、作業装置及び付属品識別記号 改正

米国より、第1部及び第2部の改訂版が2022年に発行され、一部有志が電動化図記号の追加を検討開始しているとの報告があった。また、ISO 7000 登録のために図記号を ISO/TC 145/SC 3 内で審査する必要がある、と補足された。

- ・現コンビナー退任に伴い、Charles Crowell 氏 (米国) を3年間の任期で新コンビナーに指名する。
- ・Richard Gast 氏 (米国) の、長年にわたる当 WG のコンビナーとしての多大な貢献、および ISO 規格案文の向上に対し、TC 127/SC 3 から感謝の意が示された (決議 316/2023)。

6.5.3 SC 3/WG 13 – ISO/DIS 6750-1 運転取扱説明書 – 第1部 : 内容及び形式 改正 及び ISO/CD 6750-2 同 – 第2部 : 取扱説明書を参照する文献リスト

スウェーデンから、最終段階の ISO/DTR 6750-2 が間もなく開示予定である、との報告があった。

また、現コンビナー Stefan Olsson 氏 (スウェーデン) の任期満了が近づいたため、さらに3年の任期で指名する (決議 317/2023)。

6.5.4 ISO 10261 土木機械 – 製品識別番号

TC 127 議長より、2017年頃より農業機械業界との間で「ISO 10261 の3部分割案」について相談を受けている、との報告があった。農業機械業界側の検討内容は下記。

- ・第1部 : PIN の一般的な要求規格

・第2部：第1部に含まない特定の要求規格とし、現 ISO 10261 の内容を新 ISO 10261 の第1部と第2部に振り分ける

・第3部：農機業界専用の要求規格

6.5.5 SC 3/JWG 11 – ISO 12509 土工機械 – 照明、信号、車幅などの灯火及び反射器

米国より今年初めに ISO 12509 改訂版が発行された、との報告があり、業務完了に伴い JWG 11 の解散が決議された。コンビナーの Tina Johnson 氏（米国）および Daniel Moss 氏（米国）に感謝の意が示された（決議 318/2023）。

6.5.6 SC 3/WG 9 – ISO 14990 土工機械 – 電機駆動式機械並びに関連構成部品及び装置の電気安全

米国より状況を報告した。コンビナー任期が今年末に満了するため、以下の決議が合意された。

現コンビナー Rick Weires 氏（米国）の任期満了が近づいたため、さらに3年の任期で指名する。

決議とは別に、英国とスウェーデンから改訂の提案が行われたが、コンビナー等のリソースが不足しているため、他の同様の規格の改訂が完了した後に改訂を行うこととなった。米国が新業務提案を今後提出予定、との発言があった（決議 319/2023）。

6.5.7 SC 3/WG 5 – ISO 15143-4 土工機械及び道路工事機械 – 施工現場情報交換 – 第4部：施工現場の地形データ

ISO/CD 15143-4 の委員会ドラフト（CD）が10月末期限で意見照会中、と報告された。

また、コンビナー任期が今年末に満了するため、以下の決議が合意された。

・現コンビナーの退任に伴い、中川智裕氏を3年間の任期で新コンビナーに指名する。

・山本茂氏の、ISO 15143 コンビナーとしての多大な貢献に対し TC 127/SC 3 から感謝の意が示された（決議 320/2023）。

6.5.8 SC 3/JWG 16 – ISO/PWI 23870 土工機械及び高度自動採掘システム – 移動式機械 – 高速相互接続（HSI）

米国より状況を報告した。当 JWG は5つの TC/SC（TC 22/SC 31, TC 23/SC 15, TC 23/SC 19, TC 82/SC 8 および TC 127/SC 3）にて構成され、ISO/PWI 23870-1, -2, -3, -10, -30 が最近、予備作業項目（PWI）として登録された。この規格開発は、ISO/OSD（オンライン標準開発プラットフォーム）を用いて案文を作成している。

6.5.9 TC 127/SC 3 以外の組織が主導する合同作業グループ（JWG）の状況報告

6.5.9.1 ISO/TC 23/SC 19/JWG 10 – ISO/TC 23/SC 19/WG 10 – ISO/TC 127/SC 3 – ISO/CD 23285 農業機械及びトラクター並びに土工機械の直流 32-75V 及び交流 21-50V で作動する電気及び電子機能部品及び装置の安全

米国より状況を報告した。当プロジェクトはまもなく DIS に進む予定、とコメントがあった。

6.5.9.2 ISO/TC 82/SC 8/JWG 3 – Joint ISO/TC 82/SC 8 – ISO/TC 127/SC 3 WG – ISO/AWI TR 3502 自動・自律運転の参照枠組み及び構成

オーストラリアのコンビナーより状況を報告した。

6.5.9.3 ISO/TC 82/SC 8/JWG 4 – ISO/TC 82/SC 8/JWG 4 – ISO/TC 82/SC 8 – ISO/TC 127/SC 3 WG – ISO/PWI 3510 遠隔運転・自律運転、有人運転鉱山機械の相互運用性の仕様

コンビナーの岡氏より状況を報告した。

[後記] 当 WG については2024年2月中旬に東京・機械振興会館で作業グループ会議を開催予定である。

6.5.10 連携報告

IEC/TC 105/WG 303（油圧ショベル用燃料電池の性能試験）への TC 127/SC 3 側連携代表となっている正田氏が、発行済規格について説明した。SC 3 より連携代表をつとめた正田氏と Crowell 氏に感謝が示された。

6.5.11 定期見直し

前回2021年 Web 総会以降の定期見直し20件について、投票にて「確認」とされた案件18件については、議事案「SC 3 文書 N 1198」内 N 文書を参照のこと。

総会で「確認」とした案件2件については、下記を決議し、「確認」以外の投票国に対しては、SC 3 議長より改訂・修正に向けた新業務を提案するよう推奨した。

1) ISO 11862 : 1993 土木機械 – 補助始動補助電気コネクタ

SC 3 は、定期見直し投票結果に鑑み、ISO 11862 : 1993 を確認する（決議 321/2023）。

2) ISO 14990-1 : 2010, 14990-2 : 2010, 14990-3 : 2010 土工機械 – 電気駆動及び関連構成部品及びシステムを使用する機械の電気的安全性

SC 3 は、定期見直し投票結果に鑑み、ISO 14990 : 2016 シリーズを確認する（決議 322/2023）。

6.5.12 その他

間宮議長より、当 ISO/TC 127 総会後に ISO/TC 127/SC 3 国際議長職を退任し、後任として、日本の岡氏を推薦する、との発言があった。また西脇委員会マネージャーより、当 ISO/TC 127 総会後に ISO/TC 127/SC 3 委員会マネージャーを退任し、後任として、

日本の正田氏を推薦する、との発言があった。以下の決議が採択された

決議 323：2023 TC 127/SC 3 国際議長の指名

- ・ISO/TC 127/SC 3 は、岡ゆかり氏を、新 SC 3 国際議長として3年の任期で任命するよう推奨する。
- ・ISO/TC 127/SC 3 は、SC 3 国際議長として貢献した間宮崇幸博士に感謝の意を表する。

決議 324：2023 TC 127/SC 3 委員会マネージャーへの謝辞

- ・ISO/TC 127/SC 3 は、SC 3 委員会マネージャーとして長きにわたって貢献した西脇徹郎氏に感謝の意を表する。

注：委員会マネージャー職は、ISO 総会の場においてではなく、幹事国（SC 3 の場合は日本産業標準調査会：JISC）が、選出し任命する。

6.6 ISO/TC 127/SC 4 商用名称・分類・格付け 分科委員会（10月11日（水）午後）

SC 4 会議は、Web 参加されたイタリア標準化機関 UNI の議長及び委員会マネージャーにより運営された。議長挨拶に続き、各国使節団の紹介後、議事案「SC 4 文書 N 716」の承認、決議起草委員会指名、幹事国報告（SC 4 文書 N 723 を用いて報告）が行われたのち、議事案に沿って討議が進められた。以下に各項目について記載する。

1) 各業務項目の状況報告

6.6.1 WG 3-ISO 8811（ローラ、ランドフィルコンパクタ用語）

WG 3 のコンビナーは日本が継続して担当していたが、改訂作業の中止および WG 3 の解散が決定された（決議 311：2023）。

6.6.2 WG 6-ISO 7334（自動化および自律化の分類および語彙）

CD 投票時のコメントを盛り込んだ案文が会議当日に提出され、2023年12月6日を期日に第2次CD意見照会へ進めることとなった。次回合は米国ミルウォーキーにて2024年1月22日～26日に開催予定。当プロジェクトでは、案文編集、意見集約が「OSD (Online Standard Development)」という試行中のプラットフォームで一元管理されているが、「提出意見と案文の紐づけが難しい」などの使いづらい点があり、WG コンビナーや日本事務局から、ISO 中央事務局のTPMに至急改善するよう申し入れた。

6.7 ISO/TC 127 土工機械専門委員会 総会 後半（10月12日（木））

初日に引き続き、米国議長及び幹事により運営された。以下の通り報告し決議された。

6.7.1 各分科委員会（SC）報告

前日までに開催された各分科委員会での決議及びその他事項が報告された。

6.7.2 今後の新業務の候補について、その他 Any Other Business

6.7.2.1 水素技術について

フランスより TC 127 から ISO/TC 197（水素技術）への連携を締結すべきとの申し入れがあり、TC 127 内での連携代表となる候補者を募った。日本が立候補したため、「決議 348：2023」の通り岡氏が TC 195 への連携代表となった。

6.7.2.2 その他案件

- ・総会最後に、インドより「機械式衝突保護システム」の発表があった。
- ・ただし、当資料は総会直前まで TC 127 側に開示されていなかったため、総会前日の CAG 会議の相談において「事前配布されていない案件のため、総会正式議題でなく参考情報とし、決議対象にはしない」扱いとなる旨を、TC 127 幹事とインド間とで合意していた。
- ・インド側発表の背景：開発途上国の鉱山においては、現場出入り管理が不十分な事も有り、衝突事故が絶えない。センサ技術で周辺物体を検知し衝突を回避する ISO 21815（衝突回避）が扱う技術も一つの手段であるが、発展途上国ではインフラや機械の整備が進んでおらず、先進技術だけでは対処が困難である。
- ・上記の状況を鑑み、新規格として「車両間追突を対象とする、機械式衝突保護システム」の開発を TC 127 に依頼したい。受け入れられれば、正式に ISO 側に要望を出したい。
- ・上記発表に対して、各国専門家より
 - － 新規にグループを作るのではなく既存の ISO 21815 の作業グループを活用することを勧める。
 - － オーストラリアでも以前類似規格を検討した経緯があるが、上手くいかなかった。
 などの意見が出されたが、各国の立場で新規業務を提案するプロセス自体は認められているため、今後のインドの対応を見守ることとなった。

6.7.3 次回総会の開催予定

次回 TC 127 総会は、欧州にて 2025 年第 2 四半期（4月～6月）に開催予定。詳細日時・場所は後日決定する（決議 349：2023）。

6.7.4 決議・謝辞

下記決議9件、および謝辞4件が決議された。
ISO/TC 127/N 1132 文書参照。

6.7.4.1 決議 343：2023 決議編纂委員会のメンバー

豪州、英国、イタリア、インド、日本、米国、フランス、からの各1名およびTC 127 委員会マネージャーの計8名が決議編纂委員会に立候補し、承認された。

6.7.4.2 決議 344：2023 TC 127/WG 17 コンビナー 任期延長

現コンビナーの Jon Spomer 氏（米国）の任期満了が近づいたため、さらに3年の任期で指名する。

6.7.4.3 決議 345：2023 IEC TC 21（二次電池）と IEC TC 21/SC 21A（小型二次電池）との連携締結

TC 127 から IEC/TC 21、および TC 127 から IEC/TC 21/SC 21A へ連携締結する。TC 127 側連携代表はいずれも Jon Spomer 氏（米国）。

6.7.4.4 決議 346：2023 TC 127/SC 1 国際議長の再指名

SC 1 国際議長の Jason Ong 氏（英国）の任期満了が近づいたため、さらに3年の任期で指名する。

6.7.4.5 決議 347：2023 TC 127/SC 3 国際議長の交代

SC 3 国際議長の間宮崇幸博士の退任に伴い、岡ゆかり氏を、新 SC 3 国際議長として2026年12月31日までの3年の任期で指名する。

6.7.4.6 決議 348：2023 TC 195（水素技術）との連携締結

TC 127 から ISO/TC 195（水素技術）と連携締結する。TC 127 側連携代表として岡氏を指名する。TC 195 に対しても、TC 127 側への連携代表の指名を推奨する。

6.7.4.7 決議 349：2023 次回 TC127 総会：前述第 6.7.4 項参照

6.7.4.8 会議主催者（BIS：インド規格局および ICEMA：インド建機工）への謝辞

6.7.4.9 会議主賓（インド規格局事務総長および規格局副総長）への謝辞

6.7.4.10 SC 3 国際委員会マネージャーへの謝辞

SC 3 国際委員会マネージャーとして長年国際標準化活動に貢献し、総会後に委員会マネージャー職を退任予定の西脇徹郎氏に対し、TC 127 より感謝の意が示された。

[後記] 総会終了後、後任として正田明平氏が SC 3 幹事国日本より指名され、SC 3 国際委員会マネージャーに就任した。

6.7.4.11 TC 127 国際議長への謝辞

TC 127 国際議長として長年国際標準化活動に貢献し、2024年1月末に国際議長職を退任する予定の Charles Crowell 氏（米国）に対し、TC 127 より感謝の意が示された。

注：Eric Moughler 氏（米国）が ISO 内投票を経て 2024年2月に後任国際議長に就任の予定。

7. 社交行事

7.1 夕食会

10月11日（水）会議室隣接の会場にて、BIS（インド規格局）および ICEMA（インド建機工）共同主催による夕食会が開催され、各国代表団が交流した。

7.2 市内めぐり

10月13日（金）には、BIS および ICEMA 主催し、各国委員がデリー市内名所を訪れ親交を深めた。



写真一五 夕食会の TC 127 国際議長の挨拶



写真一六 デリー市内めぐり

[筆者紹介]



大本 康隆 (おおもと やすたか)
コベルコ建機株
技術開発本部 知的財産部
標準化・コンプライアンス管理グループ



西脇 徹郎 (にしわき てつお)
(一社) 日本建設機械施工協会
標準部 部長



坂井 仁 (さかい ひとし)
キャタピラージャパン (同)
Product Compliance & Support
リージョナルコンプライアンスマネージャー



正田 明平 (しょうだ みんぺい)
(一社) 日本建設機械施工協会
標準部 部長



高山 剛 (たかやま つよし)
日立建機株
研究・開発本部 法規管理部長

